



# 房丸桜町遺跡

地域活力基盤創造交付金事業（市道00-104号線歩道整備工事）  
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

2010.3

前橋市埋蔵文化財発掘調査団



## 例 言

- 1 本報告書は地域活力基盤創造交付金事業（市道 00 - 104 号線歩道整備工事）に伴い実施された「房丸坂町遺跡」（市道路 00 - F 21 G 69）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査および整理作業は前橋市埋蔵文化財発掘調査団の指導のもと、技研測量設計株式会社がこれを実施した。
- 3 発掘調査および整理作業の体制は次のとおりである  
 遺跡所在地 群馬県前橋市房丸町 19 - 2 はか  
 調査担当 中村岳彦 佐野良平 小宮山達雄 瀬田哲夫 前田和昭（技研測量設計株式会社）  
 整理担当 中村岳彦 佐野良平  
 発掘調査期間 平成 22 年 1 月 18 日～平成 22 年 2 月 24 日  
 整理・報告書作成期間 平成 22 年 2 月 18 日～平成 22 年 3 月 12 日  
 発掘調査参加者 石川輝子 内島勝義 遠藤好則 遠藤逸子 大川悦子 大久保恒太郎 岡野 茂  
 神沢昭三 木暮孝一 佐藤和彦 佐藤文江 高橋一巳 田島秀光 田部井美砂子 角田耕二  
 戸張泰義 長岡 保 西潟 登 間庭啓治 三原一重 矢内司郎 矢内ヒロ子 湯浅澄子  
 整理作業参加者 須藤香織 高山 愛 瀧澤佳子 長田友香 福島緑子 堀越晴子 山下雅江
- 4 本書の編集は佐野が行い、原稿執筆は I を神宮 聡（前橋市埋蔵文化財発掘調査団）、II～V を佐野、V・VI を中村が担当した。
- 5 本書はデジタル編集・組版により作成し、その作業は前田、大川明子（技研測量設計株式会社）が担当した。
- 6 本調査における図面・写真・遺物は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管している。
- 7 下記の機関にご指導・ご協力を賜りました。記して謝意を表します（敬称略）。  
 山下工業株式会社

## 凡 例

- 1 全体図及び遺構平面図に示した方位は北に座標北を表し、グリッド座標については国家座標（日本測地系）IX 系の  $X=37868.0000$ 、 $Y=-64912.0000$  を基点に  $X0$ ・ $Y0$  の原点を設け、4 m ピッチに経線を X、緯線を Y として番付して呼称した。
- 2 挿図は国土地理院発行 1/25,000 『前橋』『高崎』『伊勢崎』『大胡』を使用した。
- 3 各挿図の縮尺は、それぞれに付してある。
- 4 遺構名称は、古墳～平安時代の竪穴住居：H、堅穴状遺構：T、掘立柱建物跡：B、溝：W、土坑：D、井戸：I、ピット：P、性格不明遺構：X である。
- 5 表中の計測値については（ ）は現存値を表す。
- 6 遺構図、遺物実測図のトーン表現は以下の通りである。  
 遺構図……硬化面  灰層   
 遺物実測図……須臾器（還元焙焼成）  灰軸陶器 
- 6 主な火山降下物等の略称と年代は次の通りである。  
 As-A（浅間 A 軽石：1783）、As-B（浅間 B 軽石：1108）、As-C（浅間 C 軽石：4 世紀初頭）

## 目 次

### 例言・凡例

I 調査に至る経緯	3
II 遺跡の立地と環境	3
III 調査の方法と経過	4
IV 基本層序	4
V 遺構と遺物	5
VI まとめ	16
写真図版・抄録	



## I 調査に至る経緯

本発掘調査は、地域活力基盤創出交付金事業（市道00-104号線歩道整備工事）に伴い平成21年2月3日に実施した試掘調査結果を踏まえ、平成21年11月25日付けで前橋市長 高木政夫（道路建設課）より埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。前橋市教育委員会ではこれを受け、内部組織である前橋市埋蔵文化財発掘調査団 団長 戸塚真明（以下「調査団」という。）に発掘調査実施について協議を行った。しかし、調査団では既に市内数ヶ所において直営による発掘調査を実施しており、調査団直営による調査の実施が困難であるため、民間調査組織に業務を委託したいとの回答をした。民間調査組織の導入については、依頼者である前橋市の合意も得られ、平成22年1月7日付けで前橋市と調査団との間で発掘調査業務契約を締結し、その後、1月14日付けで調査団と民間調査組織である技研測量設計株式会社代表取締役社長 嶋田大和との間で発掘調査業務契約を締結し、発掘調査開始に至る。

## II 遺跡の位置と環境

### 地理的環境

本遺跡は前橋市中心街から南東へ約6.5 kmに位置し、伊勢崎市と玉村町との市境に近い。北約650 mには県道27号線が東西に、南約400 mには北関東自動車道が東西にそれぞれ走っている。本遺跡は前橋台地上に立地する。前橋台地上には利根川をはじめ多数の中小河川が南流しており本遺跡周辺でも東約300 mには藤川、西約900 mには彌気川があり共に南東流し下流で利根川と合流する。河川によって形成された微高地には集落、後背湿地には広範な生産適地が存在している。現在でも微高地には宅地が造成され、後背湿地は主に水田として利用されている。

### 歴史的環境

本遺跡が立地する前橋台地南部は近年の北関東自動車道や県道の開発等に伴う発掘調査の増加によって当地域の歴史が徐々に明らかになっている。以下では本遺跡周辺における各時代の概要について述べる。

前橋台地上において旧石器～縄文時代の遺構は非常に少なく遺構が確認されるのは稀である。徳丸仲田遺跡（27）で確認された縄文時代草創期の微隆起線土器片、西田Ⅲ遺跡（15）の有舌尖頭器などの生活の痕跡等が確認できるものの遺跡数は少なく、弥生時代においても同様である。赤城山麓に概期の遺跡が多くみられるように当時の人々は山寄りの台地や丘陵上に居住していたと考えられる。

古墳時代になると前橋台地上の遺跡が急増する。これは水田開発と関係しており前橋台地上を流れる中小河川の豊富な水源を求めて人々が移り住み、広範囲に亘る農地開拓を行った。古墳時代前期においては点在する微高地に集落を形成し、中・後期になると洪水の被害が少ない台地へと集落を移したと考えられる。

奈良・平安時代になると再び微高地上に集落を形成し居住・生産域の拡大が図られた。天仁元（1108）年に浅間山が大噴火し、火山噴出物が山野のみならず近隣諸国にまで降り注ぎ、とりわけ高崎・前橋・伊勢崎では厚く堆積し田畠や用水路は埋没した。当遺跡周辺でもAs-B軽石によって埋没したAs-B下水田が広範囲で確認されており、「国内の田畠が壊滅」（『中右記』）したとの記録を裏付けるものとなっている。またAs-B下水田は方格地割の条里水田であり、本遺跡周辺地域でも条里地割の推定が行われている。

中世になると高崎市東部から前橋・伊勢崎市全域を含んだ地域に百を超える数の環濠遺構群が点在する。本遺跡も含んだ周辺の微高地のほとんどに存在が想定される。発掘調査においても徳丸高塚遺跡（24）、鶴光路榎橋遺跡（22）、西善尺司遺跡（28）、中内村前遺跡（29）、前田遺跡（31）で環濠屋敷跡が確認されている。

### 参考文献

- 山崎 一 1978 『群馬県古城址の研究』上巻 群馬県文化事業振興会
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2001 『西善尺司遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『横手南川端遺跡・横手湯田遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『西田遺跡・村中遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『鶴光路榎橋遺跡』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『徳丸仲田遺跡（2）』
- 群馬県埋蔵文化財調査事業団 2002 『中内村前遺跡（1）』



## V 遺構と遺物

### H-1号住居跡 (Fig. 4・10, PL. 2・5)

位置 X 15～17, Y 1グリッド 主軸方向 N-33°-E 規模 長軸 (7.12) m、短軸 (5.28) m、壁現高 0.45 m。  
面積 (17.76) m<sup>2</sup> 床面 概ね平坦だが硬化面はみられない。炉・竈 検出されなかった。東壁の南端付近で焼土ブロックの集中がみられるが、位置関係から炉に起因するものとは考え難い。住居内施設 明確には検出されなかった。重複 W-2・X-2と重複しており、新旧関係はH-1→X-2→W-2である。出土遺物 出土遺物が少量である。全て覆土上層からの出土であり、X-2に伴う遺物の可能性がある。時期 出土遺物から4世紀代と考えられる。

### H-2号住居跡 (Fig. 5・10, PL. 2・5)

位置 X 16～18, Y 1グリッド 主軸方向 N-32°-E 規模 長軸 (4.73) m、短軸 (3.57) m、壁現高 0.48 m。  
面積 (10.82) m<sup>2</sup> 床面 概ね平坦だが硬化面はみられない。炉・竈 検出されなかった。住居内施設 検出されなかった。重複 B-1・P-6・8と重複しており、新旧関係はH-2→B-1・P-6・8である。出土遺物 出土遺物が少量である。全て覆土上層から出土した。時期 出土遺物から4世紀代と考えられる。

### H-3号住居跡 (Fig. 5・10, PL. 2・5)

位置 X 18・19, Y 1グリッド 主軸方向 N-41°-E 規模 長軸 (4.63) m、短軸 (3.49) m、壁現高 0.33 m。面積 (40.52) m<sup>2</sup> 床面 概ね平坦だが硬化面はみられない。炉・竈 検出されなかった。住居内施設 検出されなかった。重複 W-1と重複しており、新旧関係はW-1→H-3である。出土遺物 出土遺物が少量である。住居跡に帰属する遺物としては台付甕 (1) が挙げられる。時期 出土遺物から4世紀代と考えられる。

### H-4号住居跡 (Fig. 6・10, PL. 5)

位置 X 11・12, Y 1グリッド 主軸方向 N-73°-E 規模 長軸 (4.60) m、短軸 (1.62) m、壁現高 0.30 m。面積 (3.0) m<sup>2</sup> 床面 概ね平坦だが硬化面はみられない。覆土 焼土や炭化物を多量に含む。炉・竈 検出されなかった。住居内施設 検出されなかった。重複 T-1・P-1と重複しており、新旧関係はH-4→T-1→P-1である。出土遺物 住居跡に帰属する遺物としては須恵器埴 (1) が挙げられる。時期 出土遺物から10世紀前半と考えられる。

### H-5号住居跡 (Fig. 8・10, PL. 2・5)

位置 X 29～31, Y 1・2グリッド 主軸方向 N-38°-E 規模 長軸 (5.08) m、短軸 (4.41) m、壁現高 0.18 m。面積 (14.56) m<sup>2</sup> 床面 平坦で東部分を中心に地山硬化床がみられる。炉・竈 検出されなかった。北壁付近で炭化物の集中がみられるため調査区外に存在する可能性がある。住居内施設 柱穴1基、壁周溝。重複 D-3と重複しており、新旧関係はH-5→D-3である。出土遺物 出土遺物が少量である。住居跡に帰属する遺物としては小型甕 (1)、高坏 (2) が挙げられる。時期 出土遺物から5世紀代と考えられる。

### T-1号竅穴状遺構 (Fig. 6)

位置 X 12, Y 1グリッド 主軸方向 N-46°-W 規模 長軸 2.88 m、短軸 2.40 m、壁現高 0.36 m。床面 概ね平坦だが硬化面はみられない。重複 H-4・P-1と重複しており、新旧関係はH-4→T-1→P-1である。出土遺物 出土遺物が少量である。全て覆土上～中層から出土した。時期 出土遺物と重複関係から10世紀後半と考えられる。

### B-1号掘立柱建物跡 (Fig. 5, PL. 3)

位置 X 16～18, Y 1グリッド 主軸方向 N-72°-W 検出長 (6.40) m。柱穴の芯芯距離 1.62～1.98 m。覆

土 P-1・2には柱痕がみられる。重複 H-2・W-1と重複しており、新旧関係はH-2→B-1→W-1である。

出土遺物 柱穴覆土中から土師器小片がやや多く出土したが、重複するH-2に伴うものと考えられる。時期 詳細な時期は不明。遺構の重複関係からは4世紀代以降。

#### X-1号跡 (Fig. 6)

位置 X11・12, Y1グリッド 規模 長軸(0.99)m、短軸0.66m。白色粘土の分布範囲である。重複 T-1と重複しており、新旧関係はT-1→X-1である。出土遺物 なし。時期 不明。

#### X-2号跡 (Fig. 4)

位置 X15・16, Y1グリッド 焼土と灰の分布範囲である。覆土 調査区壁面の土層観察によれば、本遺構は確認面より上層に存在した住居跡の炉の可能性が高い。重複 H-1・P-1と重複しており、新旧関係はH-1→X-2である。出土遺物 焼土層中に土師器の細片が若干みられる。時期 出土遺物と重複関係から4世紀以降と考えられる。

#### X-3号跡 (Fig. 6)

位置 X10・11, Y1グリッド 規模 長軸(3.72)m、短軸(1.26)m。浅い窪地である。重複 W-3・W-7と重複しており、新旧関係はW-7→X-3→W-3である。出土遺物 出土遺物が少量である。覆土中からは拳大の川原石が数点出土。時期 不明。

#### X-4号跡 (Fig. 7・11, PL. 4・5・6)

位置 X9・10, Y1グリッド 規模 長軸(6.09)m、短軸(4.75)m、壁現高0.48m。底面 起伏に富む。北側に向かって皿状に窪む。覆土 北端最深部付近に炭化物の純層が、付属溝の上層にみられる。付属施設 幅狭で深い溝が付属する。流水の直跡がみられる。出土遺物 炭化物層の層中と直上から多数出土。須臾器と灰陶器の供膳具、土師器莞など。時期 出土遺物から10世紀前半と考えられる。

Tab. 2 井戸・土坑・ピット計測表

遺構名	位置	長軸	短軸	深さ	形状	出土遺物	備考
P-1	X11・12, Y1	0.99	0.66	0.10	楕円形		
P-2	X11・12, Y1	0.99	0.66	0.10	楕円形		
P-3	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-4	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-5	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-6	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-7	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-8	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-9	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-10	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-11	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-12	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-13	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-14	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-15	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-16	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-17	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-18	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-19	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-20	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-21	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-22	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-23	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-24	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-25	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-26	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-27	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-28	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-29	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		
P-30	X11・12, Y1	1.03	0.63	0.10	楕円形		

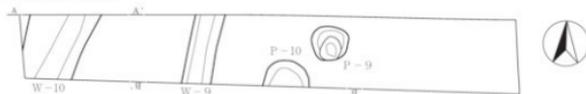
Tab. 3 溝計測表

遺構名	位置	最大径 (cm)			深さ	形状	出土遺物	備考
		上縁	下縁	幅				
W-1	X11・12, Y1	119	129	204	20	浅い直線		
W-2	X11・12, Y1	155	141	205	20	浅い直線		
W-3	X11・12, Y1	171	122	132	20	浅い直線		
W-4	X11・12, Y1	186	97	139	15	浅い直線		
W-5	X11・12, Y1	192	102	146	15	浅い直線		
W-6	X11・12, Y1	192	102	146	15	浅い直線		
W-7	X11・12, Y1	192	102	146	15	浅い直線		
W-8	X11・12, Y1	171	122	132	20	浅い直線		
W-9	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-10	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-11	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-12	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-13	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-14	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-15	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-16	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-17	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-18	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-19	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-20	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-21	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-22	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-23	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-24	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-25	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-26	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-27	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-28	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-29	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		
W-30	X11・12, Y1	169	115	130	20	浅い直線		





B区  
W-9・10、P-9・10



1-07.60m W-10



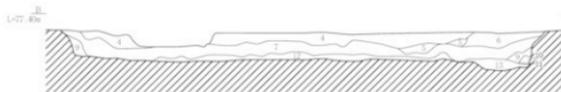
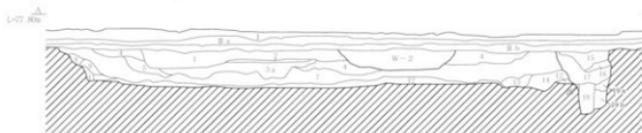
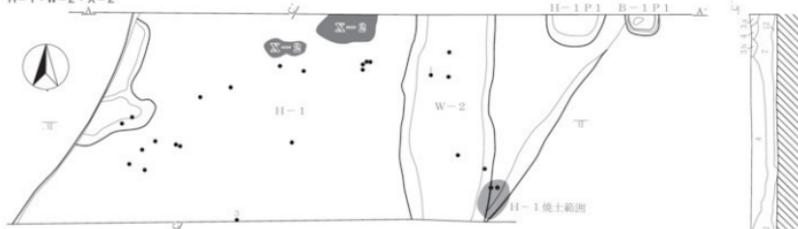
1-07.70m P-10 W-9



W-9切取

- 1 暗褐色土 焼土を微量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 2 暗褐色土 焼土を微量含む。粘性強い。締まり強い。
  - 3 暗褐色土 焼土を少量含む。粘性強い。締まり強い。
  - 4 暗褐色土 焼土を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 5 黒褐色土 焼土を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- P-10切取
- 1 暗褐色土 焼土を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 2 黒褐色土 焼土を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 3 暗褐色土 焼土を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 4 暗褐色土 焼土・灰化物・ローム粒を微量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 5 暗褐色土 ロームブロック主体。焼土を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- W-10切取
- 1 暗褐色土 灰化物を多量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 2 暗褐色土 焼土・灰化物を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 3 暗褐色土 焼土を少量、灰化物を微量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 4 暗褐色土 焼土・灰化物・ローム粒を微量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
  - 5 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。

C区  
H-1・W-2・X-2



H-1、B-1 P 1切取・切取・切取

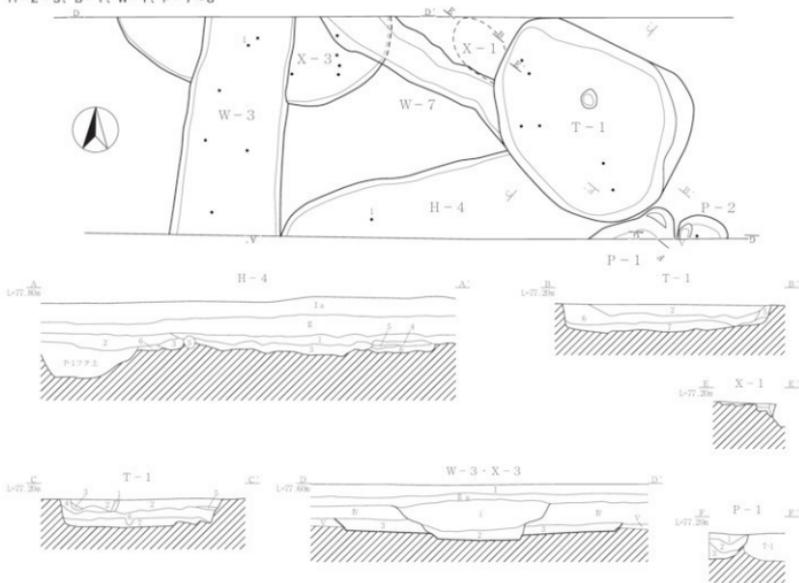
- 1 黒褐色土 焼土・灰化物をやや多量含む。粘性強い。締まりやや強い。X-2に伴う住居覆土。
- 2 黒色土 焼土・灰化物を多量含む。粘性強い。締まり強い。X-2に伴う住居覆土。
- 3 黒色土 焼土・灰化物を多量含む。粘性強い。締まり強い。X-2に伴う住居覆土。
- 4 暗褐色土 焼土・As-C軽石を微量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 5 黒色土 As-C軽石を多量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 6 暗褐色土 As-C軽石・ローム粒を微量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 7 暗褐色土 6層に類似。ロームブロックを微量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 8 暗褐色土 暗灰色粘質土ブロックを少量。As-C軽石をやや少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 9 暗黄褐色土 ロームブロックをやや多量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 10 暗褐色土 ローム粒を少量。As-C軽石を微量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 11 暗褐色土 ロームブロック主体。粘性強い。締まりやや強い。
- 12 暗黄褐色土 ロームブロック・軽石を多量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 13 黄褐色土 ロームブロックを多量含む。粘性強い。締まり強い。住居内ピット覆土。
- 14 暗褐色土 ロームブロック・As-C軽石を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。住居内ピット覆土。
- 15 暗褐色土 As-C軽石・ロームブロックを少量含む。B-1 P 1覆土。粘性強い。締まりやや強い。
- 16 暗黄褐色土 黄褐色粘質土ブロックを少量含む。B-1 P 1覆土。粘性強い。締まり強い。
- 17 黒色土 As-C軽石を多量。ロームブロックをやや少量含む。B-1 P 1覆土。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 18 黒色土 As-C軽石をやや多量含む。B-1 P 1覆土。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 19a 暗褐色土 黄褐色粘質土ブロックを多量含む。B-1 P 1覆土。粘性強い。締まり強い。
- 19b 暗褐色土 19aと比べ黄褐色粘質土ブロック少量。B-1 P 1覆土。粘性強い。締まり強い。
- 20 黄褐色土 ロームブロック主体。B-1 P 1覆土。粘性強い。締まり強い。

Fig. 4 H-1号住居跡、W-2・9・10号溝、X-2号跡、P-9・10号ピット





C区  
H-2・3、B-1、W-1、P-7~8



H-4 SPA

- 1 黒褐色土 Aa-B軽石をやや多量含む。粘性弱い。締まり強い。
- 2 黒色土 焼土・炭化物をやや少量含む。粘性やや弱い。締まり強い。
- 3 黒褐色土 焼土・炭化物を多量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 4 黒褐色土 3層に類似。焼土をやや少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 5 黒褐色土 ロームブロックをやや多量含む。粘性やや弱い。締まりやや強い。
- 6 黒褐色土 Aa-C軽石・炭化物を多量含む。粘性強い。締まり強い。
- 7 黒色土 Aa-B軽石を少量含む。粘性強い。締まり強い。

T-1 SPB・SPC

- 1 灰褐色土 灰褐色砂質土を多量含む。粘性弱い。締まり強い。
- 2 暗灰褐色土 Aa-B軽石・炭化物をやや少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 3 暗灰褐色土 赤化した鉄分ブロックをやや多量含む。粘性強い。締まり強い。
- 4 黒褐色土 炭化物をやや多量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 5 黒色土 黒色土主体。粘性やや弱い。締まりやや強い。
- 6 暗灰褐色土 2層に類似。炭化物を少量含む。粘性やや強い。締まりやや強い。
- 7 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。粘性強い。締まりやや強い。

W-3、X-3 SPB

- 1 黒褐色土 焼土・炭化物をやや多量含む。粘性やや弱い。締まり強い。
- 2 暗褐色土 灰白色砂をやや多量含む。粘性やや弱い。締まりやや強い。
- 3 ●●

L-77.3m P-2 G:



X-1 SPB

- 1 暗褐色土 黄褐色粘質土を少量含む。焼土・炭化物を含まない。粘性やや強い。締まりやや強い。

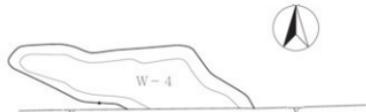
P-1 SPB

- 1 暗灰褐色土 Aa-B軽石を少量含む。粘性強い。締まり強い。
- 2 暗灰褐色土 ロームブロックを多量含む。粘性強い。締まり強い。
- 3 黒褐色土 ローム粒を微量含む。粘性強い。締まり強い。

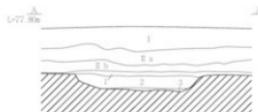
P-2 SPB

- 1 暗褐色土 炭化物、灰褐色土ブロックをやや多量含む。粘性強い。締まり強い。
- 2 黒褐色土 灰褐色土ブロックをやや多量含む。粘性強い。締まり強い。

C区  
W-4



0 1.60 2m



W-4 SPA

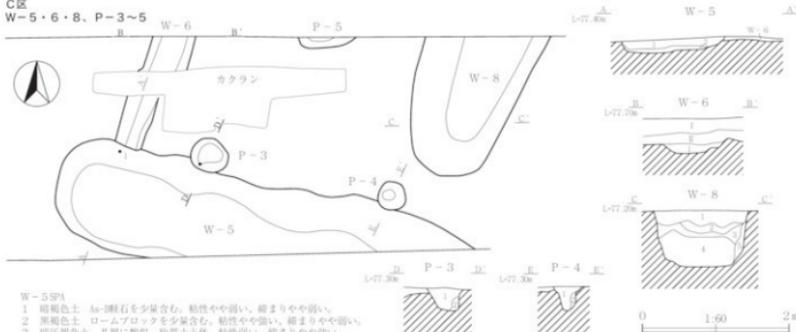
- 1 暗褐色土 鉄分沈着層。粘性やや弱い。締まり強い。
- 2 黒色土 ロームブロック・Aa-C軽石を少量含む。粘性強い。締まり強い。
- 3 暗灰褐色土 砂質土の純層。粘性弱い。締まり強い。

Fig. 6 H-4号住居跡、T-1号竪穴状遺構、W-3・4・7号溝、X-1・3号跡、P-1・2号ピット



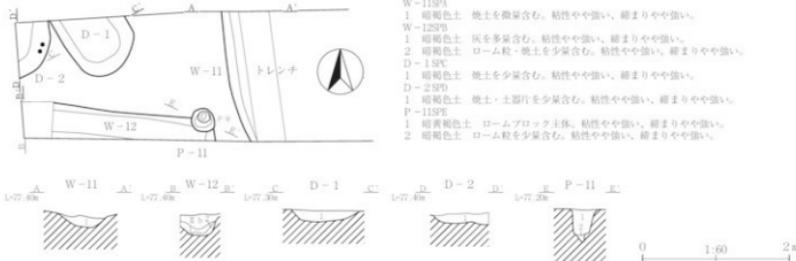
C区

W-5・6・8、P-3~5



C区

W-5・6・8、P-3~5



C区

X-4

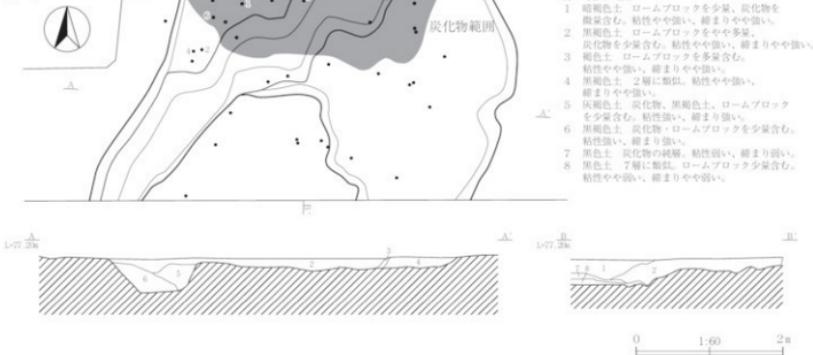
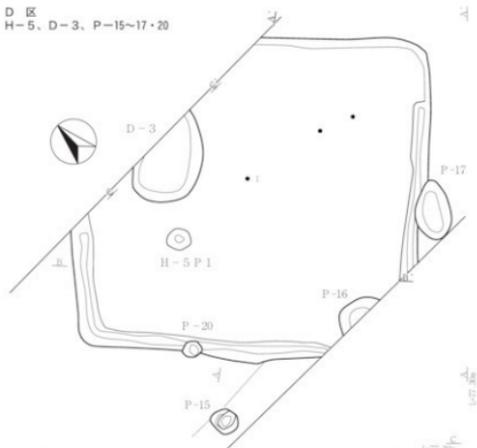


Fig. 7 W-11・12号溝、D-1・2号土坑、X-4号跡、P-11号ピット



D 区  
H-5、D-3、P-15-17・20



H-5SP1・SP4

1 暗褐色土  
ロームブロックを少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

2 暗褐色土  
ロームブロックを多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

3 暗褐色土  
ローム粒を多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

D-3SP1

1 暗褐色土 黒腐を含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

2 暗褐色土 ローム粒を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

3 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

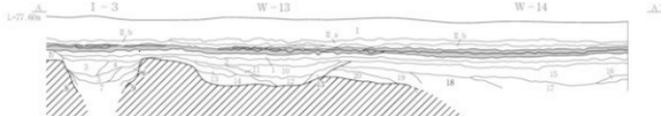
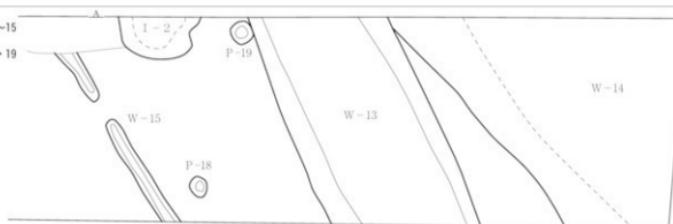


D区

W-13~15

I-2

P-18・19



W-13・14、I-2SP4

1 暗褐色土 地土を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

2 暗褐色土 地土を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

3 暗褐色土 ローム粒を少量含む。土砂少し混入。粘性やや強い、締まりやや強い。

4 暗褐色土 ローム粒を少量、地土粒を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

5 暗褐色土 ローム粒・地土粒を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

6 暗褐色土 ローム粒を多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

7 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

8 暗褐色土 黒色粘質土主体。ローム粒を含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

9 暗褐色土 ローム粒を微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

10 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性強い、締まり強い。

11 暗褐色土 ローム粒・ブロックを多量含む。粘性強い、締まり強い。

12 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性強い、締まり強い。

13 暗褐色土 ローム粒・ブロックを少量含む。粘性強い、締まり強い。

14 黄褐色土 ロームブロック主体。粘性強い、締まり強い。

15 暗褐色土 ローム粒を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

16 暗褐色土 ローム粒を少量含む。細砂混入。粘性やや強い、締まりやや強い。

17 暗褐色土 ロームブロックを微量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

18 暗褐色土 ロームブロックを多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

19 暗褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

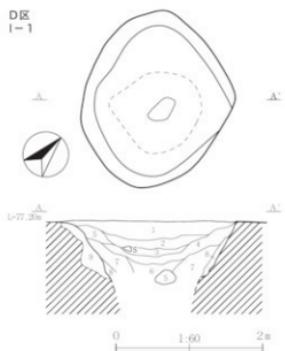
20 灰褐色土 細砂和主体。粘性やや弱い、締まりやや弱い。

■ = 黒腐 (As=黒石)

Fig. 8 H-5号住居跡、W-13-15号溝、D-3号土坑、I-2号井戸、P-15-20号ピット



D区  
I-1

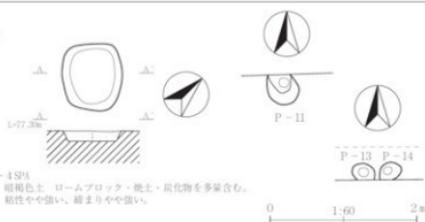


I-1 SPA

- 1 褐色土 粗粒砂を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
- 2 褐色土 炭化物・焼土を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
- 3 褐色土 炭化物を多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
- 4 褐色土 炭化物・焼土を多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
- 5 褐色土 ローム粒を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
- 6 褐色土 黒色粘質土主体。粘性やや強い、締まりやや強い。
- 7 褐色土 ローム粒を少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
- 8 褐色土 ロームブロックを少量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。
- 9 黄褐色土 ロームブロック主体。

D区

D-4  
P-9~11

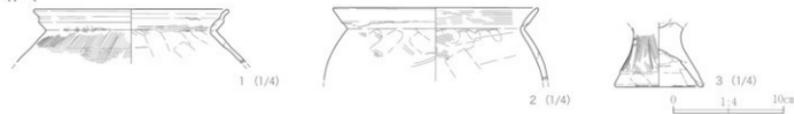


D-4 SPA

- 1 褐色土 ロームブロック・焼土・炭化物を多量含む。粘性やや強い、締まりやや強い。

Fig. 9 I-1号井戸、D-4土坑、P-9~11号ピット

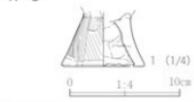
H-1



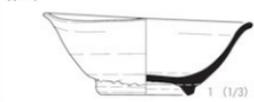
H-2



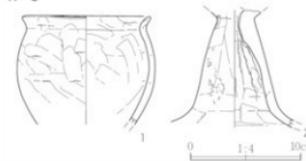
H-3



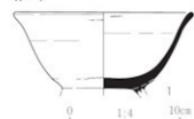
H-4



H-5



W-1



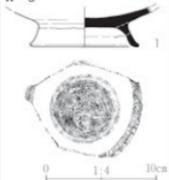
W-2



W-3



W-5



W-2



Fig. 10 H-1~5号住居跡、W-1~3・5・12号溝跡出土遺物

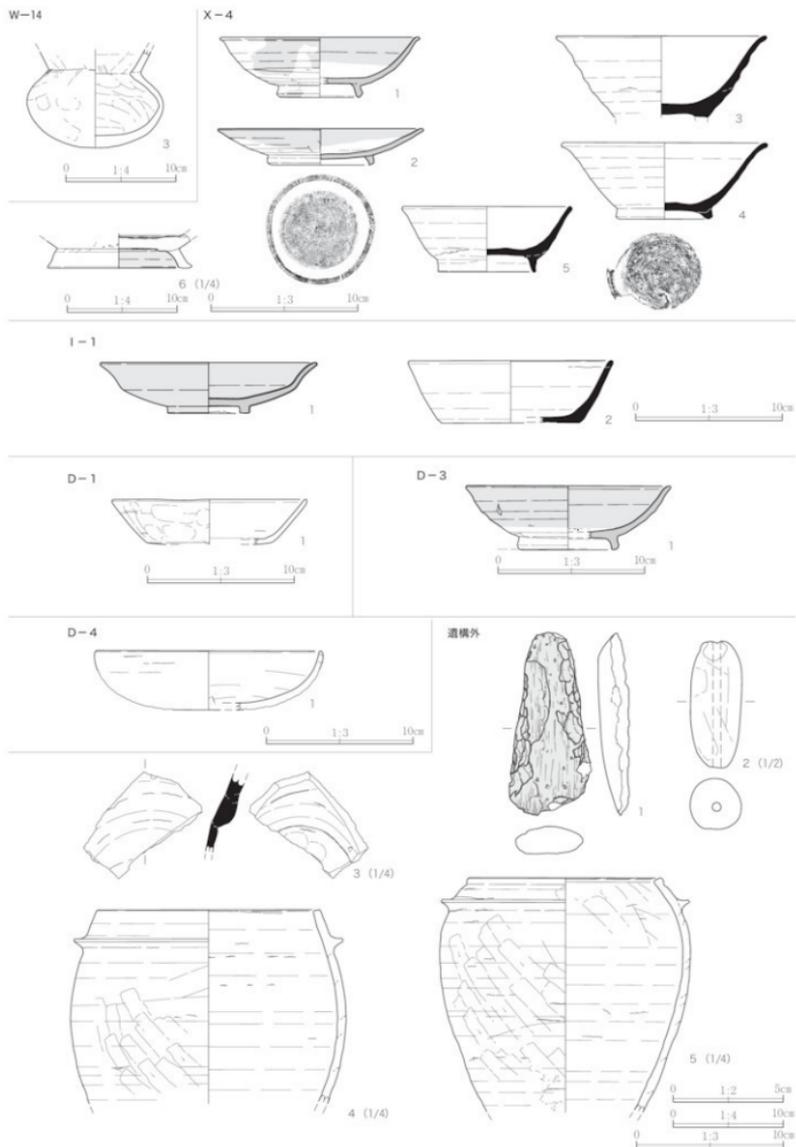


Fig.11 W-15号溝、O-1号落とし、1-1号井戸、D-1・3・4号土坑、表採出土遺物

Tab. 4 出土遺物観察表

H-1											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	墓土	土師器 付付器	-	7.9	(5.8)	白・赤・黄色粒	良好	にじみ褐色	内面ユビナテ染み付。外部ヨコナテ。内面黒染み付。黒染み付ユビナテ。	自然脱落。破損。――	
2	墓土	土師器 付付器	(7.4)	-	(5.0)	白・赤・黄色粒・チャート	良好	にじみ褐色	内面に黒染み付に黒染み付ユビナテ。以下層位ハナテ及び黒色ユビナテ。内面に黒染み付に黒染み付ユビナテ。内面に黒染み付に黒染み付ユビナテ。	口縁一箇所欠損。内面黒染み。――	
3	沖原遺上	土師器 罎	(16.5)	-	(8.7)	白・赤・黄色粒	良好	褐色	内面に黒染み付に黒染み付ユビナテ。以下層位ハナテ染み付ユビナテ。	口縁一箇所欠損。内面黒染み。――	
H-2											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	墓土	土師器 付付器	-	6.4	(4.3)	白・赤・黄色粒	良好	褐色	内面赤染み付。内面赤染み付ユビナテ。外部ヨコナテ染み付。	口縁下一箇所欠損。内面赤染み。――	
2	沖原遺上	土師器 付付器	-	8.2	5.6	白・赤・黄色粒	良好	にじみ褐色	内面赤染み付ユビナテ。内面黒染み付。黒染み付ユビナテ。	自然脱落。――	
3	沖原遺上	土師器 付付器	-	11.0	(8.0)	白・赤・黄色粒・小砂	良好	褐色	内面赤染み付ユビナテ染み付ユビナテ。内面に黒染み付。黒染み付ユビナテ。	自然脱落。――	
4	墓土	罎	(16.8)	-	(3.8)	白・赤・黄色粒	良好	にじみ褐色	内面ハナテ染み付。輪紋一箇所。外部赤。内面ハナテ染み付。	口縁部欠損。――	
H-3											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	沖原遺上	土師器 付付器	-	7.3	(5.1)	白・赤・黄色粒	良好	褐色	内面ユビナテ染み付ユビナテ。外部ヨコナテ。内面ユビナテ (及びヘラナテ)。	自然脱落。――	
H-4											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	沖原遺上	土師器 付付器	14.1	5.9	5.6	白・赤・黄色粒	良好	灰白色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。表面に赤染み付ユビナテ。表面に赤染み付ユビナテ。	4箇所欠損。破損。――	
H-5											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	墓土	土師器 小砂器	(8.7)	-	(7.5)	白褐色・石灰	中程度	黄褐色	内面赤染み付。内面黒染み付ユビナテ。以下層位ハナテ。	口縁下一箇所欠損。表面黒染み。――	
2	沖原遺上	土師器 高脚杯	-	-	(8.1)	白褐色・石灰・黄褐色	良好	灰黄褐色	高脚部下部黒染み付。黒染み付ユビナテ。黒染み付ユビナテ。黒染み付ユビナテ。	自然脱落。破損。――	
W-1											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	沖原遺上	赤褐色 高脚杯	(12.5)	-	(5.4)	白・赤褐色・小砂	良好	灰白色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。	1/2箇所。――	
W-2											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	沖原遺上	赤褐色 高脚杯	-	6.1	(2.8)	白・赤褐色・チャート	良好	灰白色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。高脚部黒染み付ユビナテ。	1/2箇所。――	
W-3											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	沖原遺上	赤褐色 高脚杯	-	5.9	(3.1)	白・赤・黄色粒	良好	灰褐色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。	体部部一箇所。――	
W-5											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	沖原遺上	赤褐色 高脚杯	-	7.2	(2.7)	白・赤・黄色粒	良好	灰白色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。	自然脱落。――	
W-14											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	墓土	土師器 高脚杯	-	-	(5.2)	白褐色・石灰・チャート	良好	にじみ褐色	内面ハナテ染み付ユビナテ。以下層位ハナテ。内面ハナテ染み付ユビナテ。	4箇所欠損。表面黒染み。――	
2	墓土	土師器 高脚杯	-	-	(8.6)	白・赤・黄色粒・チャート	良好	褐色	内面赤染み付ユビナテ。黒染み付ユビナテ。内面赤染み付ユビナテ。黒染み付ユビナテ。	自然脱落。破損。――	
3	墓土	土師器 小砂器	-	-	(6.8)	白・赤・黄色粒・チャート	中程度	にじみ褐色	内面下部・黒染み付ユビナテ。以下層位ハナテ及び小ヒヤナテ。内面ユビナテ染み付ユビナテ。	口縁部欠損。表面黒染み。――	
X-4											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	沖原遺上	土師器 罎	(13.4)	(5.4)	4.2	白・赤褐色粒	整熟	灰白色	内面ヨコナテ染み付下部黒染み付ユビナテ。外部ヨコナテ。内面ヨコナテ。	2/3箇所。内面黒染み。――	
2	沖原遺上	土師器 罎	(13.9)	6.7	2.5	白・赤褐色粒	整熟	灰白色	内面ヨコナテ染み付下部黒染み付ユビナテ。外部ヨコナテ。内面ヨコナテ。	2/3箇所。内面黒染み。――	
3	沖原遺上	赤褐色 高脚杯	(14.2)	-	(5.7)	白・赤褐色粒	整熟	灰褐色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。	1/2箇所 (表面欠損)。	
4	沖原遺上	赤褐色 高脚杯	(13.8)	(6.1)	5.3	白・赤・黄色粒	整熟	灰白色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。	1/2箇所。――	
5	沖原遺上	赤褐色 高脚杯	(11.4)	(6.4)	4.5	赤褐色粒	整熟	灰白色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。	2/3箇所。――	
6	沖原遺上	赤褐色 高脚杯	-	(13.0)	(3.1)	白・赤・黄色粒	整熟	灰白色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。表面に赤染み付ユビナテ。	表面一箇所欠損。――	
I-1											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	墓土	小砂 高脚杯	(14.8)	(5.3)	3.5	粘土	整熟	灰白色	内面赤染み付。表面赤染み付。	1/2箇所。表面黒染み。中破。――	
2	墓土	赤褐色 罎	(13.8)	(9.3)	4.3	白・赤褐色粒	整熟	黄褐色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。	1/4箇所。――	
D-1											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	墓土	土師器 罎	(13.1)	(8.4)	(3.1)	白・赤褐色・黄褐色	中程度	褐色	内面に黒染み付ユビナテ。以下層位ハナテ及び小ヒヤナテ。内面ユビナテ。	1/4箇所。――	
D-3											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	墓土	灰褐色 罎	(13.8)	(6.6)	(4.4)	白・黄褐色粒	整熟	灰白色	内面赤染み付ユビナテ。外部赤染み付。内面に黒染み付ユビナテ。	2箇所。内面黒染み。内面黒染み。――	
D-4											
番号	出土位置	種類・形状	口径 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	胎土	焼成	色調	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考	
1	墓土	土師器 罎	(15.3)	-	4.1	白・赤褐色・黄褐色	中程度	黄褐色	内面に黒染み付ユビナテ。以下層位ハナテ及びユビナテ。	1/4箇所。――	
遺物外											
番号	出土位置	種類・形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	材質	焼成	色調	重量 (g)	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考
1	墓所	打石片	12.5	5.7	2.1	凝灰岩片	-	-	164.4	形制・表面に自然磨痕を有す。磨痕が多数付着。裏面にも自然磨痕に類似した凹み付。全体黒磨りしている。裏面に赤褐色が付着する。	欠片。――
遺物外											
番号	出土位置	種類・形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	胎土	焼成	色調	重量 (g)	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考
2	墓所	土師	5.8	2.3	0.36	白・赤・黄色粒	良好	褐色	25.8	ユビナテ成形。上部円形下部円形より大。	欠片。――
遺物外											
番号	出土位置	種類・形状	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	胎土	焼成	色調	重量 (g)	裝飾・成形・文様等の特徴	保存状況・備考
3	墓所	赤褐色 磨盤	-	-	(1.5)	白・赤褐色粒	整熟	黄褐色	内面赤染み付ユビナテ。	表面黒染み付。内面黒染み。――	
4	墓所	陶器	(20.1)	-	(11.9)	白・赤・黄色粒・小砂	整熟	褐色	内面ヨコナテ染み付下部黒染み付ユビナテ。内面ヨコナテ。	口縁一箇所欠損。――	
5	墓所	陶器	(17.4)	-	(21.5)	白・赤褐色粒・石灰	中程度	にじみ褐色	内面ヨコナテ染み付下部黒染み付ユビナテ。内面ヨコナテ染み付ユビナテ。口縁部 (22 cm) 黒染み付ユビナテ。	口縁下一箇所欠損。――	



## VI まとめ

房丸桜町遺跡における今回の発掘調査では、小規模な発掘調査ながら多数の遺構が検出された。中でも、X-4号跡は最下層に炭化物純層が検出され、残存率の高い灰釉陶器や須恵器の供具類が集中的に出土した。この遺構は地形的・歴史的な要因と緊密な関係の中で形成されたと考えられる点において、本遺跡を特徴付ける調査成果のひとつといえる。そこで本章では、このX-4号跡について、立地環境や歴史背景、遺構の構造から若干の考察を行うことによって、まとめたい。

まず立地環境について。X-4号跡が形成された本遺跡の周囲を概観すると、東には藤川、西には端気川が南流し、中小河川に囲まれた低地で島状に残された微高地端部に位置する。低地という条件上、現在の景観がX-4号跡が形成された時期の様相を直接的に反映しているとは考え難く、実際にH-1・2号住居跡とした遺構などは河川の旧流路に起因する黒色土層の誤認である可能性が払拭できないわけだが、一方でこの房丸の微高地は中世には環濠遺構群が形成され、また調査では古墳時代中期のH-5号住居跡なども確認されており、巨視的にみて河川の流路変更にも堪え得る安定した土地として理解できるわけであり、先述したX-4号跡の立地環境に概ね齟齬はないものと考えられる。

次に、X-4号跡の時期と構造について。まず時期については底面直上に形成された炭化物純層の層中や直上から灰釉陶器の碗や皿が出土している。2の皿の高台は低くシャープな三日月高台で胎土の特徴から美濃窯の編年に対応を図れば、概ね光ヶ丘1号窯式期に相当する。また1の碗の高台は2の皿より新相を示し、胎土の特徴から美濃窯の編年に対応を図れば、光ヶ丘1号窯式期後段階ないしは大原2号窯式期前段階に相当する。また炭化物純層中には小破片だが頸部が内屈傾向にある、いわゆる「北武蔵型コノ字壺」が含まれていた。これら出土遺物の傾向はX-4号跡が、概ね9世紀末～10世紀初頭に形成されたことを示している。次に構造だが、全体としては浅い皿状の落ち込みの南西側に深い溝が付属する形態を呈す。最も目につくのは落ち込みの最深度で面的に広がる炭化物純層であり、遺構の底面に沿って10cm前後の厚さでレンズ状に形成されていた。炭化物純層の範囲はX-4号跡に付属する溝直上に重複しているが、この溝に沿って流出したような分布状況は示さない。しかし一方で、溝自体の最下層には部分的に砂質土の薄層が存在し流水の痕跡と考えられることから、水は炭化物純層の形成された落ち込みの最深度で滞留する状態にあり、ここからオーバーフローするような状態で付属溝を北東から南西へ流れていたもの推定できる。

構造を整理し若干の復元を行うと、調査区外の北側に展開するであろう湧水点の存在と貯溜機能、その導水施設としての付属溝として推測できるわけだが、その構造に最も近い施設としては水田経営において重要な利水施設である「溜井」の可能性が考えられる。類例としては、本遺跡に近い立地環境にある前橋市二之宮宮下東遺跡で調査された溜井「12号井戸」と対比を図りたい。この「12号井戸」はその名の通り、湧水を目的とした井戸に導水施設の溝が付属した形態をしているが、この井戸の上部構造に注目すると皿状に広く窪んでおり、冷たい湧水を一時滞留させる「温め構造」を有していることがわかる。また遺構の覆土には、純層ではないが炭化物や焼土が含まれているようである。二之宮宮下遺跡の溜井は8世紀後半の事例であるが、本遺跡X-4号跡と構造的な類似点は多いといえるだろう。

以上、類例の対比からX-4号跡を溜井の一部と仮定し、これを本遺跡の営期における歴史的景観の中に還元してみたい。該期において本遺跡周辺の低地には広大な条里水田が施工されていたことが判明しているが、このような大規模な水田経営の根幹には周囲を流れる中小河川の水利の整備がある。その中で9世紀末～10世紀初頭に至り、X-4号跡のような小規模な溜井が補完的に形成される背景には条里水田の水利システムの弛緩を挙げることが、あながち不自然ではないのではなかろうか。

いずれにしても、今回の調査ではX-4号跡の極末端の一部を調査したのみであり、そもそも本遺構が「溜井」であるのかどうかと言う点も含め、今後の周辺調査に期待するほかにない。

最後に改めて、房丸桜町遺跡の発掘調査に深い理解とご協力を頂いた方々、調査から整理作業に関わった作業員の皆様、報告書作成に関して貴重なご助言とご指導を頂いた方々に、敬意と感謝を表しておわりとした。

### 参考文献

内田忠治 1985 『東国遺跡 - 里塚と集落の発掘調査 -』 新里村教育委員会  
大西博広ほか 1994 『二之宮宮下東遺跡』 (財) 群馬県歴史文化財調査事業団



C区全景（上が東）



D区全景（上が西）



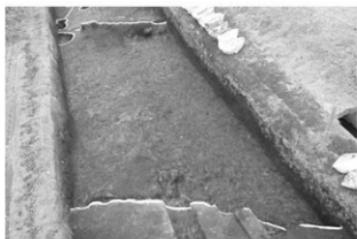
PL. 2



B区全景 (東から)



C区西側拡張部全景 (東から)



H-1号住居跡全景 (西から)



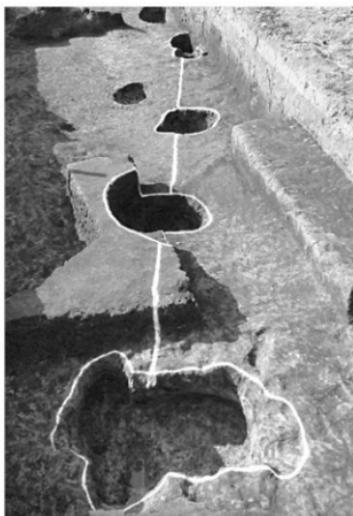
H-2号住居跡全景 (北東から)



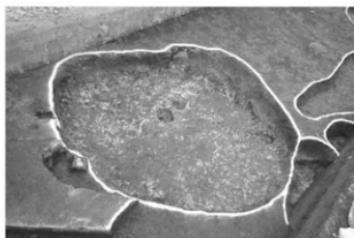
H-3号住居跡全景 (南東から)



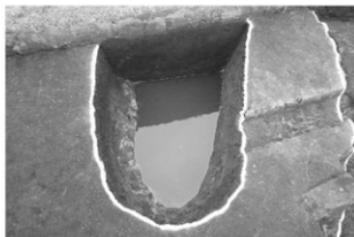
H-5号住居跡全景 (南東から)



B-1号掘立柱建物跡全景（東から）



T-1号竪穴状遺構全景（南西から）



W-8号溝全景（南から）



W-13・14号溝全景（南東から）



PL.4



I-1号井戸全景（南東から）



I-2号井戸全景（西から）



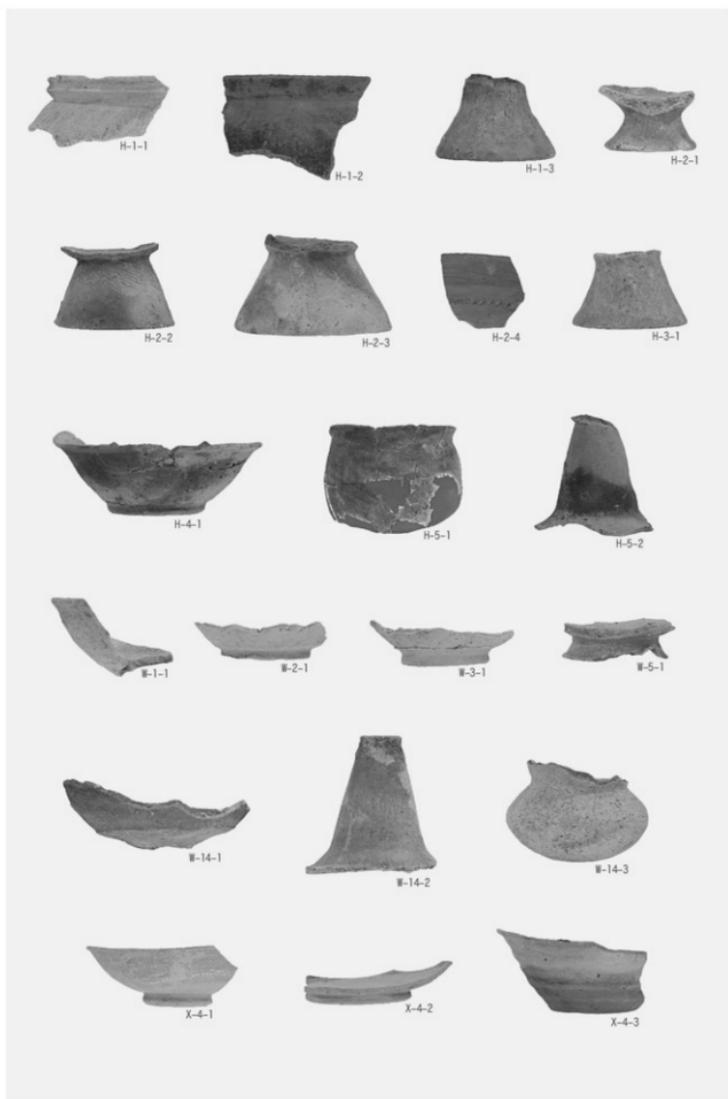
X-4号跡全景（東から）



X-4号跡遺物出土状況（北西から）

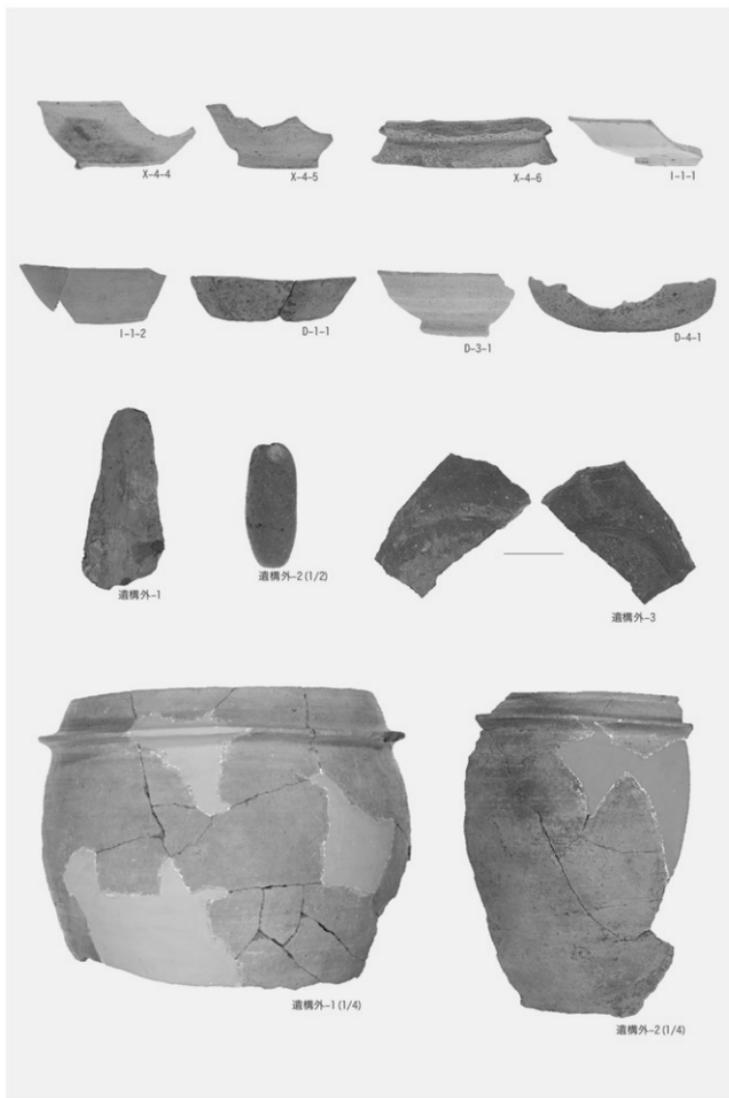


C区作業風景（東から）





PL. 6



報告書抄録

フリガナ	ボウマルサクラマチイセキ
書名	房丸桜町遺跡
副書名	地域活力基盤創造成果事業（市道00-104号線歩道整備工事）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
編著者名	神宮 聡・中村 岳彦・佐野 良平
編集機関	技研測量設計株式会社
発行機関	前橋市埋蔵文化財発掘調査団
発行機関所在地	前橋市三保町二丁目10-2
発行年月日	西暦2010年3月12日

フリガナ	フリガナ	コード		位置		調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	北緯	東経			
ボウマルサクラマチイセキ 房丸桜町遺跡	マエノシラシボウマルマチ 前橋市房丸町 19-2ほか	10201	21G69	36° 20' 10	139° 6' 50	20090118 ～ 20090223	460㎡	地域活力基盤 創造成果事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
房丸桜町遺跡	集落跡 その他	古墳・平安時代  中世	竪穴住居跡 5軒 竪穴状遺構 1基 掘立柱建物跡 1軒 溝 15条 土坑 4基 井戸 2基 ビット 20基 性格不明遺構 4基	灰釉陶器 須恵器 土師器	

房丸桜町遺跡

2010年3月5日 印刷  
2010年3月12日 発行

発行

前橋市埋蔵文化財発掘調査団  
前橋市三保町2丁目10-2

編集  
印刷

TEL 027-231-9531  
技研測量設計株式会社  
朝日印刷工業株式会社

